

令和元年度 第1回 学校関係者評価委員会議事録【こども環境科・介護環境科】

日 時 令和元年5月23日（木） 16:00～17:20

場 所 学校法人 ほっかいどう学院 くしろせんもん学校 3階 第7講義室

出席委員 小野 信一 (北海道社会福祉協議会 釧路地区事務所 所長)
伊東 義光 (北海道介護福祉士会釧路支部 支部長
道東勤医協 ヘルパーステーションすこやか 所長)
戸田 竜也 (北海道教育大学釧路校 教育学部 准教授)
住尾 盛 (釧路市PTA連合会 顧問・昭和中央2丁目町内会 会長)

出席職員 杉村 典史 (くしろせんもん学校 校長)
氏原 陽子 (くしろせんもん学校 こども環境科学科長)
渡邊 千華子 (くしろせんもん学校 介護環境科学科長)
田仲 京子 (くしろせんもん学校 こども環境科教員)
伊東 利恵 (くしろせんもん学校 介護環境科教員)
若生 みゆき (くしろせんもん学校 事務主任)

欠席者 工藤 映美 (釧路市私立幼稚園連合会 理事・認定こども園よしの 副園長)
酒井 恵 (釧路市私立保育園連合会 会長・釧路あさひ認定こども園 園長)

配付資料 ①2019年度 第1回 学校関係者評価委員会（出席者名簿・次第など）
②平成30年度 第2回 学校関係者評価委員会議事録
③平成30年度 学校関係者評価の結果
④2019年度の学校運営について
⑤学校関係者評価の為の資料（年間行事計画・学生のしおり・学校案内他）

1. 開会（司会：田仲）

2. 開会にあたって

- (1) 挨拶と経過報告（杉村）
- (2) 今年度の委員と学校職員の紹介
- (3) 司会者の決定（小野委員選出）

3. 次第（司会：小野委員）

- (1) 平成30年度 第2回 学校関係者評価委員会議事録の確認（若生） 資料②参照
- (2) 平成30年度 学校関係者評価結果について 資料③参照

①報告（学校より）

②報告に対する質疑応答

小野委員

評価をつけるにあたり、なかなか難しい部分がある。

伊東委員

学生に年に2回文書を出しているとあるが、詳細を知りたい。

学校側回答（渡邊）

在校生に対して、夏と冬の2回葉書を送付している。

住尾委員

評価するにあたり、もっと学習活動の様子などを見たい。もう少し具体化して見えると思う。介護の実習報告会に参加したが、感動した。両科とも発表などの機会があれば参加したい。

伊東委員

専攻科の同窓会への参加率が40%と高い。参加年度は、新しい方が多いのか？

学校側回答（渡邊）

卒業が近い年度だからということでもなかった。

戸田委員

参加年齢層は？

学校側回答（渡邊）

40代が多かった。こども環境科や介護環境科はなぜないのかという声も挙がっていた。

小野委員

50周年に向けて、寄付など募る案も提案したい。

③委員による学校関係者評価についての意見交換

伊東委員

新卒学生が少ないという事は、保護者数も少ない。親の立場で、子どもの通う進路先の教員と話したいと思う。

学校側回答（杉村）

社会人学生は強い意志を持って入学する方が多いと感じる。保護者に一方的にアプローチをするだけでなく、本校に興味を持ってもらうための取り組みを考えて行きたい。

住尾委員

情報発信する仕組みづくりも重要。町内会の会員登録してもらおうと（メールで？）情報発信しており、受け取る側としては、件名だけでも目に入るのできっかけにはなるかもしれない。町内会を是非活用してもらいたい。

戸田委員

学生支援はTAを中心に行っているとのことだが、相談内容はどのようなものがあるのか？また、どんなサポートを求めているのか？

学校側回答（氏原）

就職や実習についての相談が多い。履歴書の書き方や面接指導、実習で主体的に臨まなければいけない不安など相談される。

（渡邊）

社会人学生からの相談も多い。人間関係や、仕事に対する考え方、クラスでの自分の立ち位置など。

戸田委員

自らSOSを発信できない学生をサポートし、受け止める体制ができていることが関心するところだが、一部の教員に偏っていないか懸念する。

小野委員

戸田先生を講師として招いた校内研修に全職員が参加とある。職種が違っても感想を述べあうことで一体感も生まれる。

卒業後の追跡調査について、福祉人材バンクなどあらゆる機関をうまく活用してもらいたい。アピールをどんどんすると良い。

伊東委員

財務の評価が低下しているが、質を求めると大変だと感じる。ある職能団体で細かな運営も連携してくれそうなどところがあるので、検討してはどうか。

住尾委員

入学から卒業間近までアルバイトに従事してくれた、くしろせんもん学校学生を雇う側から見て、実習後には仕事に取り組む姿勢などが変化していて、成長を感じる。実習指導の成果が出ていると感じている。

戸田委員

自分たち学校評価委員も、地域に必要な仕事である保育・介護の魅力を伝えられたらと思う。

伊東委員

各自治体で奨学金があるが、釧路市でも制度を発足してほしい。そして、遠方からの学生も釧路での就職に結び付けて欲しい。

学校側回答（田仲）

学生の貧困は大きな問題だと感じており、学業と生活の両立が難しい。学びたいが、アルバイトで疲れてしまう。

小野委員

各自治体や企業の奨学金制度を調査し、学生に伝えていることを評価したい。釧路の良さをアピールし学生募集につながるという。

戸田委員

2年間で、学校の特色を出すのは難しいと思うが、何か案はあるか。

学校側回答（渡邊）

道内で文部科学省から認可を受けている唯一の専門学校。またアクティビティケアを取り入れていることも道内唯一。自然との関りが魅力でもある。定められた教育課程にプラスαで組み込むことが難しいと感じる。

伊東委員

校名が、ひらがなになった理由をしりたい。

学校側回答（杉村）

理事長の想いがあり、変更した。「釧路」という字は読めない人もおり、温かみのある雰囲気が感じられるとの理由。また、外国人入学生を視野に入れた時に読みやすくするため。

小野委員

予算が少なければ、アイデアを出すことが重要。新しいロゴも活用して欲しい。空き教室を何か活用できないかと思う。

4. 閉会（司会：田仲）

（1）挨拶（校長）

以上
（記録：若生）